千里
野外彫刻展

大阪府・千里開発センター

ごあいさつ

大阪府は、府下における住宅難を緩和するため、千里ニュータウンの建設に着手して以来六ケ年を経過いたしましたが、本事業は住宅はもとより、住民が健康で文化的な生活を営むに必要な各種施設を合理的かつ総合的に建設し、環境良好な住宅都市の建設を目的とするもので、いよいよ本年度で事業の大部分を完了する運びとなりました。さらに、昭和45年にはこの千里ニュータウンに隣接する丘陵地一帯で、アジアにおいて始めての万国博覧会が開催されることになり、ニュータウンを含むこの丘陵地は、大阪の千里丘陵から日本の千里丘陵へ、さらに世界に通ずる千里丘陵として時代の脚光を浴びることとなりました。

このときにあたり、大阪府および財団法人千里開発センターでは、吹田市、豊中市および白色セメント造形美術会、小野田セメント株式会社、毎日新聞社の後援と、その他関係諸団体のご賛同を得て、日本万国博覧会の統一テーマ「人類の進歩と調和」と、サブテーマ「生命」「自然」「生活」「相互理解」にふさわしい「千里野外彫刻展」を開催する運びとなりました。この催しが千里ニュータウンの環境整備の一助となり、さらにコミュニティの形成を促進して理想的な住宅都市を目指す千里ニュータウンの育成発展はもとより、日本万国博覧会成功へのあしがかりともなれば幸いと存ずるものでございます。

最後に本彫刻展が所期の目的を達成できるよう府民各位の深いご理解と積極的なご協力をお願いします。

昭和42年４月29日

大阪府知事　**左藤義詮**



作家ご紹介

〈五十音順〉



五十嵐芳三
YOSHIZO IGARASHI

作品名＜番人＞――――制作意図

この度の野外彫刻は広大な空間の中に置かれる事を予定しているので、出来るかぎり構造が単純で形態のイメージが力強く明確なものを必要とします。「番人」はこの様な事から私の多くのマケットの中から選んだものです。抽象化された人間の顔ですが、奥の方からのぞいている目は、何事かを監視している様ですが、その中に何となくユーモアのある事を望んでいます。

■住所 [redacted] ■所属 新制作協会々員 ■略歴 □昭和27年東京美術学校彫刻科卒業□新制作協会展にて新作家賞及び協会賞を受ける□朝日新聞社「今日の新人展」に招待□朝日新聞社「国際具象派展」に招待□毎日新聞社「現代展」にて受賞する□毎日新聞社「宇部野外彫刻コンクール展」に入選□毎日新聞社「宇部日本現代彫刻展」に招待□東京都「日比谷公園野外彫刻展」に毎年出品□国際造形連盟「東京国際美術展」に招待□本年度毎日新聞社「国際美術展」に招待



今村輝久
TERUHISA IMAMURA

作品名＜予言者＞――――制作意図

現代の人間像の表現、現代人のユーモアと不安を心理的に超現実的に表現した。

■住所 [redacted] ■所属 行動美術協会会員 ■略歴 □東京美術学校彫刻科塑造部卒□文展 日展に5回入選□行動美術展推選出品□行動美術協会々員毎年出品□朝日秀作展出品□集団現代彫刻展出品



笠置季男
SUEO KASAGI

作品名＜欣びの精霊＞――――制作意図

人間の夢が現実とむすびついた場合その結論は何かということが興味ある問題で大人の世界も小児の世界も一つの共通の場がある。

■住所 [redacted] ■所属 二科会 ■略歴 二科会理事 多摩美術大学教授



加藤昭男
AKIO KATO

作品名＜翼のある車輪＞――――制作意図

古代、物品の運搬に使われた頃から発達し、今も尚私達の日常生活に絶対不可欠な道具となった車輪。世界の文明は車輪によって交流し、今日の繁栄を招くに至った、と言えないだろうか。「車輪に栄光あれ、希望の翼もて未来にはばたけ！」と言う祈りをこめて生まれたのがこの作品です。

■住所 [redacted] ■所属 新制作協会 ■略歴 東京芸術大学卒業□新制作協会々員□朝日国際具象派展出品□毎日現代美術展出品□日比谷野外彫刻展出品



工藤 健
KEN KUDO

作品名＜壁訴訟＞――――制作意図

ベルリンの壁、アパートの壁、独房の壁、仕事場の壁――――・壁は広範な世界から己を分離しつつ、その中で小さな幸福をいとなまんとする為のものであろう、外界の力が強ければ強い程、その壁は厚く閉鎖的になり外光すら入る余地のないものになってしまう。人々は常に新しい壁の建設に全力を注ぎ、古い壁の破壊にも又全力を注ぐ。戦争とはゆうなれば古い壁への挑戦であり、平和とは新しき壁の誕生である。封建制の重き壁の崩潰は個人個人に新たな壁を要求した。小さくうすくはあるが強固な美しい壁を作りたい。その中に籠城しつつ世事の様々を見つめてみたい。

■住所 [redacted] ■所属 二科会 ■略歴 秋田県出身1937年生□東京芸術大卒同校専攻科修了□二科会会員□グループＦＦ□日比谷公園野外彫刻展



昆野 恒
HISASHI KONNO

作品名＜碑（いしぶみ）NO.３＞――――制作意図

人間のいだく次から次えとその生のある限りくりかえされる導きを白セメントの白さと幾何形態のもつ簡潔さをもつと、明るく肯定的に表現しようと考えた。

■住所 [redacted] ■所属 なし ■略歴 1915年仙台市に生る□1939年東京美術学校（現芸大）彫刻科卒□1955年第3回サンパウロビエンナーレ展に出品□1959年神奈川県立鎌倉近代美術館作品買上国立近代美術館作品買上□1953、54、64、65、66、各年個展□現在アートクラブ幹事社団法人日本美術家連盟彫刻部委員



新谷秀雄
HIDEO SHINTANI

作品名＜コスチューム＞——制作意図

カラーセメントがあるということなので色彩のある造形を試みました。

■住所 ■所属 二紀会(委員)
■略歴 昭和６年東京美術学校彫刻科卒□昭和10年文展初入選□昭和32年二紀会委員□昭和37年渡欧



菅沼五朗
GORO SUGANUMA

作品名＜像＞——

■住所 ■所属 二紀 ■略歴 1905年生□昭和７年東京美術学校彫刻科卒□昭和16年文展特選□昭和18年文展無鑑査□昭和26年二紀会彫刻部委員



菅原石盧
SEKIRO SUGAWARA

作品名＜渦柱＞——制作意図

この作品は野外という自然の一部分である公園及び人工の構造体である建物と彫刻が如何に融合するかを考慮しつつ制作した、簡潔なフォルム、静的な面構成に動的な渦状を配し、リズム感をエネルギーに展開させ、そこに現代人の行動力と心の塑を求めた。

■住所 ■所属 日展及日彫展 ■略歴 朝倉彫塑塾修□日展八回入選□日彫賞奨励賞受賞□第七回現代美術展入選□四十年度日比谷野外展出品



高須賀　桂
KATSURA TAKASUKA

作品名＜希望＞——制作意図

核の発展、特記することもありませんが空間に一つの量感を創造して、新しく造成された街の明日の平和と発展を期待し、これが置かれる環境に少しでもうるおいを添え得ればと思っています。

■住所 ■所属 二科会 ■略歴 生年月日大正２年11月27日□出身地愛媛県□学歴東京美術学校卒□現職持許庁審判官、二科会々員、芸大非常講師□経歴パリコンパレーゾン招待出品日比谷野外彫刻展出品



竹内正治
MASAHARU TAKEUCHI

作品名＜母と子＞——制作意図

穏やかな春の光を浴びて、いこいのひとときを過す母と子。何にもまして平和なその姿は見る者もおのずと心なごみ、明日への倖せの望みを与えてくれる様に思います。そんな母と子の姿を一つのフォルムとしてとらえてみました。

■住所 ■所属 二科会 ■略歴 □昭和32年東京芸術大学彫刻科卒以降二科展に出品□昭和40年二科会会員現在に至る



辻　晋堂
SHINDO TSUJI

作品名＜おばQ＞——制作意図

鉄やテラコッタの作品で、私はその表面に窓のような孔をあけ内部空間を覗けるようなものをつくり続けていますが、セメントの場合は、よほど大きく作らない限りそういう事ができません。そこでこんどは孔をあけるかわりに表面にふくらみをつけてみました。

■所属 無 ■略歴 □1910年鳥取県に生まれる□33年～57年まで院展に出品□42年日本美術院同人となる□58年日本美術院を脱退して二紀会に参加し65年二紀会を去る□57年サンパウロビエンナーレ展□58年ヴェニスビエンナーレ展グッゲンハイム美術館"七人の彫刻家。展（ニューヨーク）□59年鎌倉近代美術館" 辻・柳原彫刻展日本国際美術展□60年日本現代美術展□61年個展(東京日本橋画廊)カーネギー国際美術展(ピッツバーグ)日本国際美術展□62年オスグッド画廊14人の日本美術家展（ニューヨーク）現代日本美術展□63年日本国際美術展、ヨーロッパを旅行す□64年現代美術展、個展（京都紅画廊）□65年日本国際美術展、個展（東京壱番館画廊）□66年ジャパンアートフェスティヴァル及びニューヨーク近代美術館' 日本絵画と彫刻展(ニューヨーク)、ロダン美術館第３回国際彫刻展(パリ)アメリカ、ヨーロッパを旅行す



中川為延
TAMENOBU NAKAGAWA

作品名＜銀河＞——制作意図

千里丘陵ニュータウンは宇宙時代にふさわしいマンモスニュータウンである。私のイメージは宇宙に於ける銀河を連想する私はこのニュータウンを地上の銀河として之に関連した作品を制作したいと思った。

■住所 ■所属 二紀会 ■略歴 □昭和５年３月東京美術学校彫塑科卒業□昭和５年10月文展初入選□昭和６年―17年入選11回□昭和18年５月大日本海洋美術展入賞□昭和18年９月陸軍美術協会賞□昭和18年12月大東亜戦争美術展陸軍大臣賞□昭和19年８月帝展無鑑査者□昭和21年～25年日展５回入選□昭和26年８月二紀彫刻部設置に付創設委員として迎えられ現在二紀会委員



長野隆業
RYUGYO NAGANO

作品名＜和（結び）＞——制作意図

結ばれる、結びあう、結ぶこの構造のもつ位相性を造型しました。和に通ずる感情を出したかったのです。

■住所 ■所属 二紀会 ■略歴 □戦前二科会彫刻部会員□昭和30年二紀会委員推察□昭和31年現在日本美術展に招待□昭和32年国際美術展に招待連続今日に至る□昭和32年34年36年37年度朝日秀作展に推薦さる□現在女子美大、東京理科大講師



原　武典
TAKENORI HARA

作品名＜璧の中の太陽＞――――制作意図

自然光のなかで考えられる平面における凹凸による陰影の変化が持つ立体性を求めてみたいと思っております。

■住所 [redacted] ■所属　新樹会

■略歴□集団現代彫刻展□新樹会展□毎日現代展□野外彫 刻コンクール展□彫刻の新世代展□東京芸大彫刻専攻科卒



番匠宇司
TAKASHI BAN

作品名＜宇＞――――制作意図

機械文明の進歩は人間の欲求を大きく変えた現代社会ではお互いに機械におい廻されている様な生活をしている。私達は時に誰にも何ものにも束縛されない素朴で自由な独り歩きがしてみたいと思う。そんな心の虫を単純な形で留めてみたかった。

■住所 [redacted] ■所属　二科会 ■略歴　□大正14年５月10日生□昭和24年東京高等師範学校卒業□昭和25年第35回二科展初出品以降毎年出品□昭和36年二科会会員現在に至る□昭和36年京都学芸大学助教授現在、京都教育大学助教授



日高頼子
YORIKO HIDAKA

作品名＜石花＞――――制作意図

何か深い内からのみわきいでる生命に耳を傾け、これを最も自由に創造化したく思います。

■住所 [redacted] ■所属　二科会 ■略歴　□東京都出身□61′東京芸術大学彫刻科卒□63′同校専攻科修了□「赤赤」展「第５回現代日本美術展」「二十代彫刻の新世代展」「刊」展「日比谷公園野外彫刻展」「宇部野外彫刻展」□二科会会友



仏子泰夫
YASUO BUSSHI

作品名＜歌の聞える丘＞――――制作意図

まだあどけなさが残る空をみつめて何かを探し、何かを聞きとろうとしている。若い未完の女性を表現しようと思ったが巧く表現出来なかった。

■住所 [redacted] ■所属　日展 ■略歴　□東京美術学校彫刻科卒□日展会員□日本彫刻塑会々員



松村外次郎
SOTOJIRO MATSUMURA

作品名＜灯籠（副題　桃太郎）＞――――制作意図

雪見灯籠や春日灯籠等はその姿と名称も共に美しい。伝統が不在がちの昨今、詩と夢を無限に語り続ける灯籠は風土が生んだ代表的な造型の至宝でもありましょう。「万国博」「明治百年」の言葉の拡がりに連れてより日本的なものへと思考していましたらたどりついたのがこの灯籠でありました。「雪月花」へと風情を添えてくれることを希望しつつ。

■住所 [redacted] ■所属　二紀会 ■略歴　□学歴富山県立工芸学校美術学校を経て巴里留学□職歴　昭和初期日本農民美術研究所講師、戦前二科会会員、戦後田村剛造園研究所に員、二紀会委員□作品歴御木本真珠王富山県民会館コダマ、鶴岡市バッカント、茨城日立製作所小平会館壁画レリーフ、佐世保亜熱帯植物園石彫（植樹）



三坂耿一郎
KOITIRO MISAKA

作品名＜牛に乗るユーローペ＞――――制作意図

大きな建築群と広い芝生を持つ空間にマッチさせるべく、ややフロンタリテーな彫刻を試みました。

■住所 [redacted] ■所属　日展 ■略歴　□昭和12年東京美術学校卒□昭和12年日展入選□昭和22年第６回日展特選□昭和32、33年　日展特選□昭和34年日展審査員会員



安田周三朗
SYUSABURO YASUDA

作品名＜翠（みどり）＞――――

■住所 [redacted] ■所属　日展 ■略歴　□明治39年７月14日東京都に生る□昭和５年東京美術学校彫刻科卒業□昭和５年より文展帝展日展入選□昭和26、27、28年　日展特選及朝倉賞□昭和30、37年日展審査員□昭和39年日展評議員□昭和35、38、39年現代美術展、国際美術展招待出品□昭和11、12年欧米留学□昭和39年米国美術視察旅行□横浜国立大学教授、東北大学、宮城教育大学講師



山本恪二
KAKUZI YAMAMOTO

作品名＜母と子＞――――制作意図

主題は自明の通りで解説の余地はなく作風に関しては古典的スタイルを念頭において作ってみました。既に２年前同じ主題で同じ傾向の作品を京都市の家庭裁判所前に建てましたが、今度の作品はそれの延長上にあるものと考えています。作者はこの主題が大変気に入っておりますので今後も同じ主題で様々なヴァリエーションを展開したいと考えています。

■住所 [redacted] ■所属　新制作協会 ■略歴　□大正４年２月18日生□昭和17年９月東京美術学校彫刻科卒□昭和27年新制作協会会員□現在京都美術大学彫刻科助教授



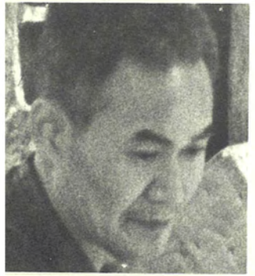
山本稚彦
WAKAHIKO YAMAMOTO

作品名＜腕をくむ＞——制作意図

古代支那の銅器のような形態を、古い空間の解釈ですが、希望した次第です。

■住所 ■所属 日展 ■略歴

□明治34年４月29日生□大正15年東京美術学校彫刻科卒業□大正13年帝国美術院展覧会初入選□昭和12年文部省展覧会無鑑査□昭和16年応召□昭和23年帰還□昭和25年日展に初出品、特選、朝倉賞受賞□昭和26年日展に出品、特選、朝倉賞受賞□昭和27年日展に出品、特選、川合賞受賞□昭和28年日展審査員、秀作美術展招待□昭和32年日展審査員、日本現代美術展招待□昭和33年新日展評議員、日本国際展招待、文部大臣賞受賞□昭和34年国際具象展招待□昭和35年第３回日展審査員、渡欧□昭和36年帰国、第４回日展作品「十字架のことば」、昭和36年度文部省買上□昭和40年欧州留学



山脇正邦
MASAKUNI YAMAWAKI

作品名＜天の子＞——制作意図

母子像ですが、母子の愛情は人間であれば普通で人間が考える以上のもので母子共翼を付けました。

■住所 ■所属 日展 ■略歴

□昭和８年東京美術学校(現芸大)彫刻科卒□昭和27年日展特選□昭和35年より日展出品依嘱無鑑査



吉岡 侃
KAN YOSHIOKA

作品名＜母と子＞——制作意図

彫刻は我々に一番近い芸術です。人々に親しまれ、愛されるものでなくてはなりません。手をふれ、寄りかかることによって我々の生活の中に溶けこむものです。詩情をたかめ、愛を知り、より豊かな心を育てるものであるべきです

■住所 ■所属 二科会

■略歴 □1922年大阪に生る□1944年東京美術学校彫刻科卒業□1965年二科会員現在に至る

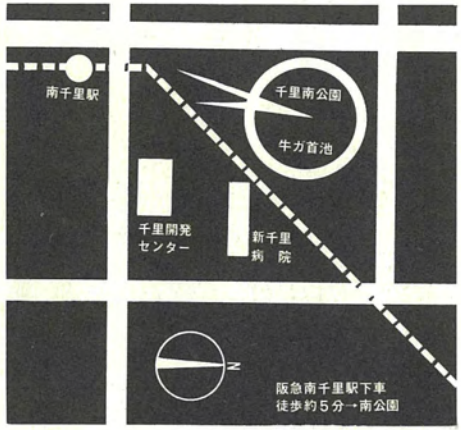


綿引孝司
TAKASHI WATABIKI

作品名＜間＞——制作意図

一単位の量を〝重ね〟の連続によって成立つパターンのおもしろさをねらった。つまり量と量との重ねによって現われる〝間〟がこの場合のねらいどころでこの〝間〟が逆に物質的な量をこえて、形と量とを〝空〟なる事によって現わす事が出来る。そこに引き出される無限の形こそ私の意図するところである。

■住所 ■所属 日展 ■略歴 □昭和35年東京芸術大学彫刻科卒業□昭和36年グループ展(同期生による)□昭和37、38、39、40年２人展（絵画と彫刻とによる）



後援

吹田市・豊中市
毎日新聞社
白色セメント造形美術会
小野田セメント株式会社